

と考えるがいかがか。

高薄町長

4月以降、院長の交代もあり、病院側から2、3回お話を伺っている。

常勤医師の確保は困難であり、大学の医局も医師が不足していることから、出張の先生を見つけないのも容易ではないとのことである。

町民の方の親族に医療関係者がおり、知り合いを通じて清水町に来ていただけないか尋ねてみた

こともあるが、家庭や子どもの教育環境、勤務環境などから、定住するまでは考えが至らないとのことであった。

若い先生方はどうかと聞くと、勤務時間や休日、当直の有無、特定分野を重視する方が多いので難しいとのことであった。

病院側には、何か力になれることがあれば協力したいとは伝えているが、町立の病院ではないのでなかなか難しい問題である。

空き町有地を利用して子育てしやすいまちづくりを

中島里司 議員

清水・御影両市街地で、空き町有地を開放して有効利用を図り、子育てしやすい、移住定住につながるまちづくりを行う必要があると思うが、考えを伺う。

また、土地を開放しようという考えがあるのであれば、子育てにメリツトのある町として、情報を発信する体制を整備してはどうか。

高薄町長

人口の減少は急激ではないが、何もしなければ減少が進んでいくので、真剣に取り組まなければならない。

就業人口の16・4%が町外からの通勤者であり、住宅政策を推進しなければならぬと考えている。町有地の活用できる部分で土地利用を検討してお

り、できれば来年度から進めていきたい。

ただ、インフラ（生活基盤）整備が伴うものであるから、どの程度の金額がかかるか試算している。いずれにしても民有地との価格差を含めて考えていきたい。

情報の発信については、ホームページや町の広報紙で行っているが、それが町外に発信できているかというところでできていない状況である。子育てという施策、定住という対策から、各課で所有している行政財産を調査している

ので、早急にこの問題に取り組み、来年実施に向け、努力したい。

人口減少による地方消滅への対策

安田 薫 議員

先日、民間有識者らで構成する「日本創世会議」が、2040年までの人口減少の予測に基づき、896の自治体が消滅の危機に直面するという試算を公表した。本町が生き残るには、どのような考えがあるか伺う。

今後は地域包括ケアシステムと併せて、子育て支援策の充実や結婚をサポートする出会いの場の創出、地元雇用の確保等に取り組んでいただきたいかがか。

高薄町長

子育てしやすい、結婚して生活しやすい、そして安心して暮らせるような施策やまちづくりをしていく必要がある。

地域包括ケアシステムの確立は全医療機関の協力が必要になってくるの

で、更に新しいものを構築していかなければならない。

子育ての問題はたくさんあるが、今後、登下校時の安全対策をどうしていくか、親子のふれあいや遊びを中心とした活動の促進をどのような手法で構築するかを考えなければならぬ。

一番頭が痛いのは結婚の問題である。農業者、商業者それぞれに策を進めているが、共に進めていくような体制が必要と考えている。

地元雇用の確保は、起業・雇用促進補助制度により、採用1名あたり50〜60万円の補助体制をとって雇用の確保に努めている。

現行の事業者が規模を拡充できるように状況をつくるために、地元の製品を愛用することも考える必要がある。

結婚、出産、子育て支援、教育、生活環境についての国の新たな政策が出てくるので、それらも有効に活用しながら対策を進めていきたい。

閉会中の委員会活動

総務文教常任委員会

指定管理者制度の活用について  
その他所管に関する事項について

産業厚生常任委員会

農業基盤整備事業について  
農業コントラクターの現状と展望について  
その他所管に関する事項について

議会運営委員会

議会の運営とその諸規定について  
議長の諮問に関する事項について